

東松島復興推進員だより(第9号)

～地を往きて走らず～

東松島市宮戸島は、漁業と観光の地です。
三陸の豊かな海を利用して、海苔やワカメ、カキなどの養殖を行っています。
宮戸島にある3つの浜が津波に襲われ、ノリやカキの養殖イカダやノリ乾燥施設、漁船などすべてが流出してしまいました。

島の人達は「復興を進めて行くにはまずは生業再建が必要である。」、「まずは養殖を再開したい。」との思いが強くなります。

昨年に第三次補正予算にて国の支援事業が承認され、漁港や水産業の復旧に係るメニューが使えるようになり、漁師の方々の期待は大きく膨らみました。
東松島市においても、漁業協同組合を通して申請の受付が始まりましたが、難しい行政言葉で書かれた内容に皆さんは戸惑いました。
また、漁協自体も大きく被災しており、職員数も減っていて漁師の方々への助言などができない状況で、申請を受け付けるだけで精一杯の状況でした。



美味しい海苔を育むイカダ

そんな状況を見た地域復興推進員は、島の人達の生業再建を支えたいと、漁師の方々の申請手続きをお手伝いしました。

まずは、難解な行政言葉をわかりやすく伝えることに着手しました。

ニーズの高い、5年以内の自立を目標とした共同化による経営再建を支援「[がんばる養殖復興支援業](#)」事業について、簡単に理解できるようにマニュアルを作成し配布しました。

これにより、どんな状況の時に事業に申請したら良いのかが分かり漁師の方々

からの評判も上々でした。

事業内容や申請方法など、わからないことについては、漁師の方たちと一緒に石巻漁協をなんども訪問し確認や助言をもらいました。



養殖イカダに網を張る作業

海苔養殖用のイカダは、網を張るために木材を使用します。

京都のNPO法人「[京都発・竹・流域環境ネット](http://www.kyoto-takenet.org/)」が管理されずに放棄されて問題になっている竹林を手入れし、切り出した竹材を被災地の養殖イカダに提供しています。このNPOが宮戸の支援を開始しており、京都出身の福原推進員が橋渡し役をしています。

京都で厄介者となっていた竹が月浜の養殖に活かされていきます。

4月末には京都で切り出された竹材が宮戸に到着し月浜に届けられました。これからイカダを組んで行きます。

少しずつですが、着実に水産業も復興に向けて歩みを進めています。

福原推進員は宮戸の養殖グループと地元の京都を、今後も繋げて行きたいと頑張っています。

【奥松島月浜ノリ養殖グループ 月光ブログ】

<http://gekkoh7.seesaa.net/>

【京都発・竹・流域環境ネット】

<http://www.kyoto-takenet.org/>

【復興まちづくり推進員ブログ】

<http://hmms0311fm.da-te.jp/>

【推進員だよりバックナンバー：JICA東北ホームページ】

<http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/shinsai/index.html>

以上

JICAは、宮城県、東松島市、宮城大学、東松島まちづくり応援団（NPO）等と共同で「地域復興推進員」を通じた震災復興モデル事業を東松島市で開始しました。このモデル事業では、早期震災復興につながる”市民協働のまちづくり”を支援することを目指しています。ここで得られた教訓や経験を将来の国際協力に繋ぎます。
